

済生会横浜市東部病院 救急科専門研修プログラム 概要

1, 基幹プログラムについて

基幹施設である東部病院と連携施設である神奈川県病院、平塚市民病院で研修を行います。東部病院では、原則として救急科に所属しますが、おもに集中治療を担う救命救急センター部門と、外傷外科・一般救急外科を担う Acute Care Surgery 部門があり、それぞれの部門を組み合わせる研修を行います。救急外来（ER）での研修は、どちらの部門に所属していても行います。また、院内の麻酔科、外科、内視鏡部門、放射線部門などと協力して研修を行うことも可能です。

① 臨床現場での研修

1) 救急外来（ER）での初期診療

指導医、初期臨床研修医とともに初期診療にあたります。救急搬送患者の大半は救急科で初期診療を行います。東部病院は救命救急センターおよび横浜市二次救急拠点病院 A にも指定されていますので、最重症～中等症の患者を主に診察します。

2) 救命救急センター病棟（救命 ICU, 救命 HCU）での集中治療

指導医、選択研修をした初期臨床研修医とともに、担当医として集中治療を研修します。救命救急センター病棟は、救命 ICU10 床、救命 HCU14 床で構成され、年間約 1000 人の救命救急センター入院患者のうち、約 9 割は救急科が主科となって治療を担当しています。

3) Acute Care Surgery 部門における外傷・緊急手術と術前後管理

救急科と外科のダブルボードを有する指導医や、外科の専攻医と一緒にチームを形成し、外傷手術や急性腹症などの一般外科緊急手術、および一部の予定手術の助手を務めます。難易度の低い一部の手術では指導医の指導の下、術者を経験します。ダブルボードを目指す専攻医に関しては、当プログラムを修了後、もしくは一端中断し、当院の外科専門研修プログラムを専攻することが可能です。

4) 他診療科・部門と連携した研修（麻酔科、外科、放射線科、内視鏡等）

5) 定期的なカンファレンス・抄読会への参加

② 臨床現場を離れた研修

1) 救急医学に関連する国内外の学会、研究会への参加、発表を奨励します。

2) 院内に、トレーニング用マネキン等が配備されているスキルトレーニング室が設置されており随時シミュレーションを行うことができます。

3) 院内で ICLS が定期的開催されており、受講や指導の機会を多く得られます。インストラクター資格を得ることも可能です。JPTEC, MCLS DIERCT, なども院内で開催実績があり、院内外で開催されるコースへの受講ができます。

4) 研修施設もしくは日本救急医学会やその関連学会が開催する講習会や済生会本部が主催するワークショップや研修に参加する機会を提供します。

○各病院での週間スケジュール例

ここに示すスケジュール例は、あくまで基本的な例であり、個々の専攻医のスケジュールは、専攻医の希望や必要症例数等によりアレンジされます。

済生会横浜市東部病院 救命救急センター

	月	火	水	木	金	土/日
8:00		救急科 抄読会				
8:30	部長回診		部長回診			
9:00	救命 ICU・HCU 回診					
午前	救命 ICU 救命 HCU	麻酔研修	救命 ICU 救命 HCU	ER 勤務	救命 ICU/ 救命 HCU	
午後						
18:00	救急科 カンファレンス					

済生会横浜市東部病院 外傷・救急外科 (Acute Care Surgery 部門)

	月	火	水	木	金	土/日
8:00		救急科 抄読会	外科合同 抄読会			
8:30	部長回診		部長回診			
9:00	救命病棟回診					
午前	一般病棟 緊急手術	予定手術	ER 勤務	一般病棟 緊急手術	ER 勤務	
午後					緊急手術	
18:00	救急科 カンファレンス			外科合同 カンファレンス		

済生会神奈川県病院

	月	火	水	木	金	土/日
8:00		東部病院 抄読会	外科合同 抄読会			
8:30	部長回診					
9:00	病棟回診					
午前	予定手術	病棟 救急対応	病棟 救急対応	予定手術	内視鏡	
午後	病棟			病棟		
18:00	東部病院 カンファレンス					

平塚市民病院

	月	火	水	木	金	土/日
7:00	ER 勤務 早番	ER 勤務 早番 WS 当番	救急病棟	ER 勤務 遅番	ER 勤務 遅番	
8:00						
14:00						
16:00						
17:00						
18:00	画像読影 カンファレンス	ER 症例 カンファレンス	入院患者 カンファレンス			
20:00						
23:00						

WS：救急ワークステーション

○各種カンファレンス

- ① 救急科カンファレンス（毎月曜夕）
- ② 救急科抄読会（毎火曜朝）
- ③ 外科合同カンファレンス（毎木曜夕）
- ④ 外科合同抄読会
- ⑤ CPC（年10回程度）
- ⑥ 外傷症例検討会（年1回）
- ⑦ 慶應外傷症例検討会（年3回）
- ⑧ 救急隊員との症例検討会（年2回）

2. 施設群による研修プログラム

ローテーション例：

1年次	東部病院救命救急センター 11ヶ月		神奈川県病院 1ヶ月
2年次	東部病院救命救急センター 5ヶ月	東部病院 Acute Care Surgery 5ヶ月	平塚市民病院 2ヶ月
3年次	東部病院救命救急センター 10ヶ月		神奈川県病院 2ヶ月

各分野の年度ごとの配分や順番は、専攻医の希望や、それまでの経験などを踏まえて、他科ローテーションも含めて弾力的に運用します。

3、研修プログラムの施設群

① 基幹施設：済生会横浜市東部病院

主に三次救急、重症の二次救急を研修します。横浜市小児救急拠点病院、神奈川県地域周産期母子医療センターにも指定されており、小児科、産婦人科、精神科、その他の特殊診療科に関連する救急対応も研修できます。

② 連携施設：済生会神奈川県病院、平塚市民病院

神奈川県病院は主に、内科、外科等の軽症の二次救急を研修します。(研修期間中に3ヶ月間) 平塚市民病院では、地方中規模都市での中等症～重症の二次救急医療、救急ワークステーションでの病院前診療などを研修します。平成29年度より新たに救命救急センターに指定されました。(研修期間中に2ヶ月間)

4、サブスペシャリティ領域との連続性について

救急領域のサブスペシャリティとして予定されている集中治療領域の専門研修において、本研修プログラムの東部病院で経験する集中治療の経験を、救急科専門医取得後の集中治療領域研修で活かせるように配慮します。東部病院では、すでに集中治療センターが日本集中治療医学会専門医研修認定施設に認定されていますが、平成28年度に救命救急センターも認定される予定です。幅広く早期に効果的に集中治療領域の研修を積むことができることも東部病院の特徴です。

また、サブスペシャリティではありませんが、救急科研修終了後に、改めて基本診療科である外科の専門医を取得するダブルボードを目指すことも可能です。特に東部病院では救急科と外科のダブルボードを持つ指導医が複数いること、日常的に救急科と外科が連携して診療をしていることから、ダブルボード研修に抵抗感はありません。